

第14回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1999年3月5日（金）10:30～11:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
政策課 坂田課長
原子力調査室 森本室長、板倉、池亀、藤原
国際協力・保障措置課 古西、竹内
核燃料サイクル開発機構
国際・核物質管理部 遠藤次長
吉鋪専門委員

4. 議 題

- （1）「'99 JNC原子力平和利用国際フォーラム」の開催結果について
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1 「'99 JNC原子力平和利用国際フォーラム」の開催結果について
- 資料2 第13回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）「'99 JNC原子力平和利用国際フォーラム」の開催結果について
標記の件について、核燃料サイクル開発機構より資料1に基づき説明があった。これに対し、
 - ・ロシアの解体核について日本が技術協力していく上で、ロシアの核兵器が解体された結果発生するプルトニウムはIAEAの検認のもとに置かれるべきだが、これに関し米国、ロシア、IAEAの三者間の議論は進んでいない。
 - ・核解体のロシア側の物理的能力には制約があり、実際に発生するプルトニウムは限られている。
 - ・ロシアの解体核はどのように処分されるのか。
- （JNC）濃縮ウランに関しては米国が買い取るようになっており、既に一部の買い取りが行われている。プルトニウムについては、今の米ロの合意ではロシア国内で消費することになっている。
- ・大事なことは日本が協力していく解体核について、取り出されたプルトニ

ウムがロシアの中で消費されることに対して、日本の技術が貢献したことを見えるようにすることで、それが確実に行われたことに対する情報公開がなされなくてはならない。

- ・フォーラムの目的は焦点が絞れており、出席者も適切であり、よいフォーラムであった。
 - ・セッションⅠの「先進的な原子力平和利用技術と核不拡散」では、米国が高速炉を指向していないことを除けば、日、米、ロ、仏が同じ方向を向いていたと思う。JNCとしてはこのフォーラムの結果を今後どのように分析してくのか。
- (JNC) 今回はとりあえず結果報告をさせてもらったが、今後、フォーラムでのパネリストのステートメントやディスカッションの内容を詳細に分析し、また今回の出席者との様々な機会での交流を通じてフォローアップしていくことを考えていきたい。また来年度については、その積み上げの上で開催できるようにしていきたい。
- ・是非とも次につなげるものを作り出していくようお考えいただきたい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(2) 議事録の確認

事務局作成の資料2第13回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回は3月9日(火)に定例会議を10:30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。